

# KSKQ どかどか No.293

## ぽぽんがぽん news



笑顔あふれ つながりあえる社会へ  
～ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために～



あけましておめでとうございます。

さて、昨年より新年のご挨拶を「年賀状」ではなく、本紙「ぽぽんがぽんNEWS」(通称:通信)でのご挨拶に一本化させていただきました。ですので、まずは新年のご挨拶をさせていただきます。

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は多方面よりご理解、お力添えいただきましたこと誠にありがとうございました。上手くいくことも上手く行かないこともあり、時に厳しいお言葉、時に温かい励ましのお言葉、昨年もいろいろなお声を頂戴いたしました。ぽぽんがぽんに関心を寄せて頂いているという点におきましては、ありがたいことであり、感謝申し上げます。本原稿を作成している頃は、全国的にコロナ感染の第8波に入り法人の内外でも感染報告が相次いでいます。症状は比較的軽症だけど爆発的な速度で感染してしまう事例が多く聞こえてきています。年末年始での感染ピークという話も出ておりますので、本誌がお手元に届いている頃の感染状況が心配されます。

さて、障害福祉にとって昨年の大きな出来事の1つが日本が初めて障害者権利条約に関する審査を受け総括所見・改善勧告を受けたことではないでしょうか。国連からの主要な指摘事項としては、①精神科病院の強制入院の実態や入院の長期化の背景にある法令の廃止や脱施設化、②インクルーシブ教育が進んでいないため特別支援教育の廃止、が挙げられました。関連する記事や研修情報も多く見かけました。

また、この1年SNSを中心に「収入の9割が国からの給付金」「不況に強い」「不労収入」「コロナ禍でも安定」「〇か月で初期投資回収可能」などの誘い文句を掲げ障害福祉事業参入がゴールドラッシュかのような公告も頻りに目にします。特に放課後等デイサービスやグループホームに関連する公告が多いように思います。通所系事業も含めさまざまな事業での参入誘致公告を目にするようになりました。

私たちは、障害者運動を基軸に活動を重ねてきて、一つの到達点として2003年の支援費制度を迎え、ノーマライゼーションやインクルーシブ社会の実現を目指す手段として事業参入しました。そこから約20年が経ちました。そして、個人ごとですが、おおよそ20年後には私は定年を迎えます。年が明け20年後に向けた1年目が始まります。さて、最近流行りのビジネス用語で「パーパス経営」という言葉があります。簡単に言うと「パーパス≡目的、なんのために」です。「何のために?」という問いを、支援について、事業運営について、社会について、改めてみなさんといっしょに考え、いっしょに行いたいと思います。本年も引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。(事務局 水野昌和)

### 内容

- ・ 新年のご挨拶
- ・ きょうのNANIKA
- ・ ろくちゃんまちをゆく
- ・ スタッフ紹介/事業紹介(ヘルパー派遣部門)
- ・ 後援会より
- ・ 芳村さん勤続10年のお祝い
- ・ 寄付金等の御礼
- ・ 編集後記

一九九二年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・5・6・8)の日発行



# きょうのNANIKKA

009

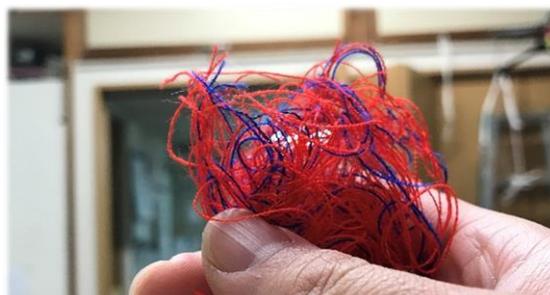
生活介護事業所ぽかぽか・どかどかに通う利用者さんの取り組みのなかで、  
私たち支援スタッフや、利用者さん同士が「何かすごい」「何かいいなあ…」と感じた「何か」。  
名前をつけたり説明してしまう前に、まず色んな人に見て欲しい、  
そして一緒に考えられたらいいなと思います。

## のこらないけど



どかどかのYさんは、休憩時に布をほぐして過ごしています。  
コップに入った数枚を、少しずつ数日かけてほぐしていきます。  
何か意識して取り組むというより、周りも見ながらまったりした  
感じでほぐしていきます。

電話中に無意識になってしまう落書きのようなものでしょうか？  
(布はスタッフが用意していますが、ただの布切れに見えて、  
厚さなどほぐしやすさを考えてブレンドしていたりします)



ぽかぽかのSさんは、商品の仕上げでカットした毛糸  
を、机の上に綺麗に並べます。  
重ならないように、といてあまり規則性はなく、独特の  
模様ができあがります。  
作業が終わればまとめて捨てられるものですが、出来上  
がった商品よりもSさん「らしさ」を表現しているような  
…(とあってスタッフが写真を撮って報告してくれたのだ  
と思います)

タイトルがつくような「作品」、値段をつけられるような  
「商品」以外にも、  
形としてのこらないけど、その人の個性が表現されてい  
る「何か」がとてもたくさんあるような気がしています。



(題字：林裕之さん 文：山根康純)

いっしょに考える。  
いっしょに行く。



# ろくちゃんまちをゆく NO.102



こんにちは。2021年に移動円滑評価会議近畿分科会 事務局の提案でさんくらわああの乗船体験の企画が2021年11月16日～17日にあり、参加させてもらったことを記事にいたします。

参加者は当事者6名で介助者・スタッフ合わせて11名、神戸港から大分港までの乗船体験で、私の記憶では乗船の経験は20年前以上になり久しぶりでした。当時は手動車椅子1台の広さのエレベーターがあっただけで、ほとんど記憶がなく、車椅子で乗船というイメージありませんでした。実際に乗船する時は人道橋を使って船内へ行きました。



船内のエレベーターは15人乗りのエレベーターがあり、電動車椅子2台はいっても



カゴ内の広さのゆとりがありました。船長さんから船内の説明や救命胴衣の説明や船内の見学をする時間がありました。救命胴衣をつけてみましたが、身体に合っているか・・・不安でしたが、なんとか着用できました。もし、船内の災害がおこった時には、船内の担当の方が対応して、避難ポートまで対応してもらえるようでした。



船内の見学では、車椅子でも使えるトイレは5階の一箇所のみで、多目的トイレやシャワーも完備されていました。ドアが横開きで開閉する時が重かったですが、広さ的にスペースがあり利用はできました。スタンダードルームではドアが重くて自分では開閉することができず、室内は電動車椅子1台入れるくらいで、電動車椅子で前や後ろの切り替えができず、後ろ向きで室内へ入りました。ほとんど身動きが出来ずで、このルームで就寝する予定でしたが、ツーリスト（相部屋）に変更してもらいました。ざこ寝のところで自宅と同様に四つん這いで動く事ができ、また、多目的トイレにも近くになりました。他の室内も見学しましたが、電動車椅子の動線の確保ができていなく、身動きが取れないことも分かりました。



展望デッキでは、出入り口の段差解消がされており、展望デッキにも出ることができ、ちょっと寒かったです。海風が気持ちよかったです。

船長さんの話では船の買い替えは、20年以上ということで、少し期間があるようですが、次回の船の買い替えの時には、さらに当事者の意見を踏まえて作ってほしいと思いました。また、乗船で就寝のルーム変更など配慮をしていただき快適な乗船となりました。(六條友聡)

## スタッフ紹介 ヘルパー派遣部門

こんにちは、ぽぽんがぽんヘルパー派遣部門の中尾裕幸です。  
背が高く坊主頭がトレードマークです。(最近横にも大きくなりつつあります)

僕がぽぽんがぽんに入社して丸9年がたちました。

それまでは大阪市内の知的障がい者の入所施設に4年(同法人内のグループホームスタッフとしても在籍していました)、次は京都市内でヘルパー派遣事業所のサービス提供責任者として4年半勤務して今のぽぽんがぽんが一番長く働かせていただいています。

ぽぽんがぽんでは皆さんとお出かけしたり、自宅での身の回りの支援等しながら日々いろんなことを経験して学ばせていただいています。



またプライベートでは2児(上は女の子、下は男の子)の父として、お休みは家族で出かけたり、平日であれば幼稚園や習い事などの送迎要員として動いたりして、出来る限り家族で過ごす時間も大切にしたいと思っています。

今年3月に家族みんなコロナにかかってしまい(僕はたまたま運良く陰性でしたが、濃厚接触者になってしまいました)、皆さんにご迷惑おかけしました。元気に回復して最近では万博公園にTV「おはよう朝日です」のイベントがあって出かけたり、息子の誕生日のお祝いにお祝いU.S.Jへ遊びに行きました。マリオが大好きでニンテンドーワールドに入れ、一日中大はしゃぎで楽しみました。



こんな感じで仕事もプライベートも適度にメリハリをつけて、楽しみながらがんばっていきたくと思っていますので、これからもどうぞ宜しくお願いいたします m(\_ \_)m (中尾裕幸)

## 事業紹介

### ヘルパー派遣部門 ~自立生活運動の歴史~

昨年末、ヘルパー派遣部門では、自立生活に入っているヘルパー向けに、自立生活運動の歴史について、動画視聴での研修を行いました。

いま、ぽぽんがぽんでも当たり前に行なっている、自立生活(ヘルパーを使った一人暮らし)の支援がどのような経緯で形作られたのか、映像を見てもらった後で、参加者に意見交換をしてもらいました。

いっしょに考える。  
いっしょに行く。



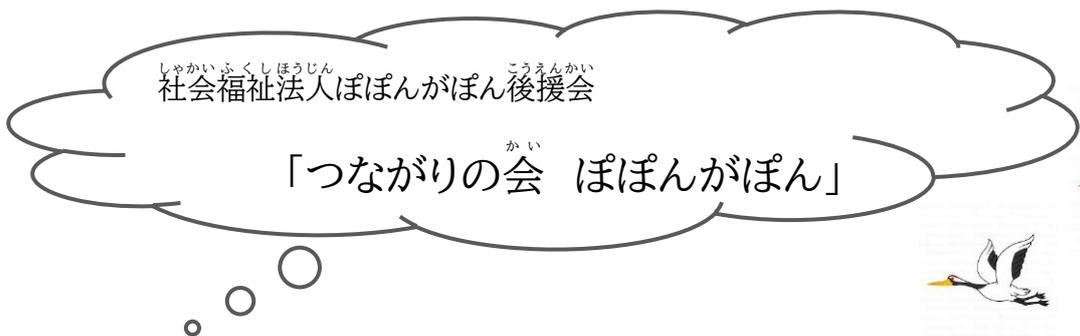
これまでの研修に比べるとやや固めの内容で、どんな雰囲気になるか心配していたのですが、参加者からは、過去の努力があって今があるのを感じたという意見や、昭和という時代だからこそ出せた当事者運動のエネルギーを感じる、など様々な意見が出て、とても有意義な時間が過ごせたと思っています。

また映像を見て個人的に印象深かったのは、身体障がいの当事者から始まった運動が、実は私たちの暮らしにも大きな影響を与えていたという事実です。

数十年前までは、駅にエレベーターがないのが普通で、車いすの方を担いで階段を上っていました。環境が整わない事で、障がいのある人が出かけたくとも出かけられないといった事例がつい最近まであり、そういった社会課題に対し、当事者が運動に取り組んだ結果、今では誰でもたくさんの人たちが利用する駅のエレベーターの普及につながっています。

生産性や合理性という尺度により、様々な場面で排除される事の多かった当事者が、自らの意思を表明する事で、結果的に多くの人々が生活しやすい街づくりにも繋がっていった。その事実はとても示唆深く感じられます。未だ多くの場面で少数派として見られる事の多い障がい当事者こそが、他の人たちが気づいていない、世の中の隠れた課題やニーズを敏感に感じ取れるのかもしれない。

そしてそれを広く発信する事で、大きく社会を動かしていく事ができる可能性を持っているのではないだろうか。そんな事も感じました。(由井英一郎)



長らくコロナ禍・・・、後援会としての活動が昨年も中々できない状況にありました。総会も7月に予定しておりましたが、感染状況増により延期し、遅くなりましたが9月11日(日)に無事に開催、終了いたしました。

今回も、新型コロナウイルスの影響を考慮し、ズーム参加か会場参加か委任状もしくは議決権行使書の提出での開催とさせていただきます。「ぽぽんがぽん」に後援会としてどう支援されますか?というご意見も頂きました。今後「ぽぽんがぽん」から提案・依頼・必要とされる内容にどのように支援していけるか、又、役員会などで検討していきたいとおもいます。総会の後半では「ぽぽんがぽん」で現在取り組まれている虐待に関する事業所内研修について説明を受けました。参加者から、職員・支援者に限らず、親向けにも研修を・・・の声がありました。時代的に意識の少なかった昔、私たち親世代が普通に発していた言葉や対応が、今は当事者の尊厳を傷つけている虐待にあたることも・・・、意識改革が必要です。一緒に考えていきたいと思っています。(村上和子)



## 芳村さんの永年勤続の表彰式・祝賀会に参加！

グループホームさくらを利用している芳村さんですが、11月14日に勤務先の株式会社セイビ大阪さんから永年勤続での表彰式、祝賀会へご招待いただきました。

同行させていただきましたので、ご報告致します。芳村さんは普段、クリエイティブセンターで掃除のお仕事をされています。朝6:30~9:30(10月までは6:30~11:00まで)で勤務されています。今年で勤務10年目を迎えることとなり、表彰していただくことになりました。

会場はホテルニューオオタニ大阪、ご出席の方々は株式会社セイビ大阪さんの社長さんや役員さん、上司の方々と、芳村さんと同じように永年勤続の表彰を受ける方々(中には25年勤務、30年勤務の方も!)でした。

表彰式では、社長さんから今年、永年勤続の表彰を受ける方々が入社した時の社会情勢のお話がありました。芳村さんと「懐かしいね～」と思い出していました。



### 令和4年度 株式会社セイビ大阪 永年勤続表彰式



左から木村社長、芳村さん、役員さん

その後、緊張しながらも社長さんから表彰状を受け取り、ニコッと嬉しそうにされていました。

表彰式後、社長さん・役員さんと写真を撮っていただきました。この時も、芳村さんは少し緊張されていたようです。

その後は会場を移動し、祝賀会に出席しています。ホテルのコースメニューを食べつつ歓談、芳村さんはお隣の席の表彰された方と仲良くお話されていました。

メニューはステーキやパイ包みのスープ、串カツやパンナコッタなどあり、たくさんおいしい料理をいただきました。芳村さんは少し

シャンパン、ビールも召し上がっていました。

食事の間には社長さんや役員さん、上司の方々からもたくさん労いのお声をかけていただきました。

祝賀会の後半にはビンゴゲームが開催され、芳村さんは残念ながら時間内での『ビンゴ!!』にはなりませんでしたが、そのあとに社長さんとのジャンケンで勝ち、景品をいただきました。



祝賀会はリラックスされつつとても楽しまれ、ほろ酔いで帰宅しています。

ビンゴゲームの景品は帰宅後に開封すると、手首に巻く血圧計でした。ご自身用のものは持っていなかったで、大事に使われるそうです。

勤続10年の記念品でマッサージクッションもいただき、そちらも喜ばれています。



次は5年後に永年勤続での表彰をしていただけるので、これからはそれを目指して元気でいよう！！とやる気になられていました。

芳村さん 勤続10年おめでとうございます！！  
(田口聖明)



ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございます！

ご寄付等のお礼 2022年9月11日～2022年11月4日まで (順不同)

※郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は上記期間に限らず掲載させていただきます。ご了承ください。

● 社会福祉法人ぼぼんがぼんへのご寄付ご協力ありがとうございました。

鎮山様 新井様 長島様 井上様 村上様 匿名の皆様

● つながりの会ぼぼんがぼん (後援会) へのご寄付ご協力、ありがとうございました。

【ご寄付いただいた方々】 山下様 仙波様 村上様 匿名の皆様

【募金箱のご協力 (回収)】 高原様 埴淵様 ファミリーマート並木町店様 ファミリーマート舟木町店様

● アルミ缶・牛乳パックの提供ありがとうございました。

【アルミ缶】 八口八口様 舟橋様 浅野様 竹内様 藤本様 洗様 中嶋様 姫木様 古川様 作業所・法人本部等へ持って来てくださった皆様

【牛乳パック】 萬谷様 洗様 ハシオダニ様 中嶋様 関西よつ葉連絡会淀川産地直送センター様 ピース様 作業所・法人本部等へ持参してくださった皆様



社会福祉法人ぼぼんがぼんへご寄付をご希望いただける方は、ゆうちょ銀行へお願いいたします

<払込取扱票をご利用される場合>  
口座記号口座番号: 00930-0-212299  
口座名称: 社会福祉法人ぼぼんがぼん

<口座振込をご利用される場合>

銀行名: ゆうちょ銀行 金融機関コード: 9900  
店番: 099 預金種目: 当座  
店名: 〇九九(セトウキウ)  
口座番号: 0212299  
口座名称(漢字): 社会福祉法人ぼぼんがぼん  
口座名称(カナ): フクポボンガボン

## 編集後記

当法人の前身でもある特定非営利活動法人いばらき自立支援センター(ぼぼんがぼん)の代表理事や、社会福祉法人ぼぼんがぼん設立準備会の会長を担って下さいました、江菅洋一様が、2022年9月21日にお亡くなりになりました。

ぼくが江菅さんとはじめて会ったのは、ぼくがまだ20代の頃、まだどかどかに関わっていた頃だったと記憶しています。

江菅さんは長く定時制高校の教員として勤めながら多くの社会運動に携わっておられ、当会の運動にも関わっておられたのだと思います。

その後、ぼぼんがぼんのNPO法人時代にも、まだ若く運動や組織運営のことなどよくわかっていなかった私たちは何かと江菅さんに相談にのってもらっていたことを記憶しています。

その後江菅さんは、NPO法人の監事となり、緊密に関わることとなったのですが、振り返れば、江菅さんは常に私たちを育てようという視点で関わっていただいていたのだと感じます。学校での勉強をあまりしてこなかった私ですが、一時期は江菅さんの生徒のようになって、指導を受け、多くを学ばせていただきました。

最後にお会いしたのは、茨木しよう会の定例会で、休憩中、吾郎さん、わるいけど先帰るわ。と声をかけてくれました。江菅さん体調は？と聞くと、ぼちぼちあんまりよくない。と言われていました。

江菅さんはぼぼんがぼんに多くの力をくれましたが、なんといっても社会福祉法人の設立は、江菅さんがいなければ、成し遂げることはできなかったことは、誰もが知るところです。

江菅さんから教えられたことは今もぼくの手帳にメモとして残り、少しは成長できているかなと忘れないように時々振り返っています。江菅さん本当にありがとうございました。(太田吾郎)

- 法人本部、ヘルパー派遣、グループホーム窓口、相談支援、移動送迎  
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F Fax 共通 072-623-9203  
法人本部 Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)  
グループホーム窓口 Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)  
移動送迎 Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)  
ヘルパー派遣 Tel 072-623-9205 (9:00~18:00)  
相談支援 Tel 072-623-9210 (9:00~17:00)
- いばらき自立支援センター「ぼかぼか」(8:30~17:30)  
〒567-0850 茨木市真砂玉島台 8-20 Tel 072-635-5762 Fax 072-635-5763
- いばらき自立支援センター「どかどか」(8:30~17:30)  
〒567-0842 茨木市五十鈴町 7-29-1FS Tel 072-637-6882 Fax 072-637-6883
- 茨木市立障害者就労支援センター かしの木園 (8:45~17:15)  
〒567-0031 茨木市春日 1-15-22 Tel 072-626-5910 Fax 072-626-5912
- 茨木市子ども・若者自立支援センターくろす (10:00~19:00)  
〒567-0842 茨木市片桐町 4-7 Tel 080-2467-5566
- ユースプラザ center エント (10:00~19:00)  
〒567-0882 大阪府茨木市元町 4-7 ローズ WAM2 階 事務室 Tel 080-1521-4624



<https://popongapon.com/>



編集人：「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」  
(社会福祉法人ぼぼんがぼん)  
Tel(072)623-9202 (お問い合わせはこちらまで)  
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F

発行人：関西障害者定期刊行物協会  
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2-東興ビル 4F 定価:50円

UD FONT

みやすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

いっしょに考える。  
いっしょに行う。

